

しらおか男女共生広報紙

ハーブテイ

2005.9

Vol.14

ひと ひと
～女と男をかんがえる～



男だけの職業ではない。 車掌になりたい! 私にもできた。

女性の職業、男性の職業という境界は、今ではほとんどない時代となりました。

本人の意志と能力があれば自由に職業を選べるのではないのでしょうか。

これからの日本の社会を担う若い学生さんたちは、職業についてどのようにとらえているのでしょうか。

今回は、彼らが希望する職業で活躍している方にインタビューしてもらいました。



おおしちかこ
大橋知雅子さん
(株)東京地下鉄
青山車掌区
平成8年、車掌になる



さとうあきこ
佐藤愛紀子さん
(白岡町在住)
東京交通短期大学1年
車掌に憧れ勉強中

これからの夢

佐藤 これからの夢はありますか、それは何ですか?

大橋 指導員の試験を受けて指導員になりたいです。厳しく指導していきたいです。

東京、池袋本町にキャンパスのある東京交通短期大学で学ぶ、船木さんと千葉さんも同席してくれました。お二人の感想をご紹介します。



ふなきたけし
船木健志さん



ちばひろし
千葉浩志さん

船木さん： 実際に現場で働いている方の話を生で聞けました。想像とは違った大変さや、働く上で必要な知識や努力すべきことなどを聞いて、とてもためになりました。

千葉さん： 将来働きたい企業の生の声が聞いて良かったです。この体験を将来役立てたいです。

◆最後に大橋さんから三人の学生さんにエールを送っていただきました。

がんばれば実に成るので
がんばってください。
待っています。

何になりたいか、何をしたいか大きな目標を持ちそれに向かって日々努力をする・・・それは、女性・男性という性別を問わず大切なことです。若いエネルギーをフルに活用して自分の信じる道を歩いていっていただきたいと思います。

和やかな雰囲気の中で始まりました

佐藤 どうして車掌になりたかったのですか?

大橋 最初入社したころは、女性が車掌になれない時代でそういうものだと思っていました。

あるとき急に

「女性の募集があるけどどうしますか」と言われましたが、

「女性で初めての車掌になりますよ」という言葉にひかれて

“じゃあ一番になろう”と思って試験を受けました。

佐藤 勉強や努力はどのくらいしたのですか?

大橋 研修期間中は運転業務のことをゼロから学ばなくてはいけなくて、全然わからないことばかりでした。

特に現場に行かないとわからないことばかりです。

*試験はペーパーテストに合格しても適性検査、クレペリン検査、身体検査などもすべて合格しなくてはならない。

現実と夢のギャップ

佐藤 現実と夢とのギャップはありましたか?

大橋 んー、あまり夢を抱いていたわけではないので・・・

テストを受ける時も

「女の人には大変だからやめたほうがいいよ」とまわりの男性からの声もありました。

大変は大変だけどその分やりがいがあります。ギャップはないけど責任の重さを感じます。

男社会の中で女性が働くのは大変ですが

佐藤 男社会の中で女性が働くのは大変ですか?

大橋 大変な面とよい面があって職場の男性はやさしいのですが、込み入った話になると、いつの間にか一人ポツンといるときもあります。

それとまだ女性が少ないから設備の面では、お風呂がきれいだとかすべての面で新しいです。



男性が多いところなので、お客様の視線が優しいです。

子どもが声をかけてくれたり手を振ってくれたりしたとき、女性で良かったなと思います。

でも、女性車掌だと珍しいのか、こちらを見てから乗車されるので、乗車に時間がかかり、困ったときもありました。

生活のリズムは

佐藤 不規則だと思いますが、自己管理は大変ですか?

大橋 泊まりの勤務になってから“じんましん”が出るようになったので、睡眠には特に気を遣っています。

佐藤 **ワーク/ライフ バランス** についてどう思いますか?

大橋 考えたことがないです。今は仕事に夢中です。ノルマがないので切り替えはしやすいです。仕事に対するストレスも高くないし、気分転換はしやすく休日は映画を観たりします。



【クレペリン検査】
一桁の足し算を一定時間内に行い、その結果により集中力や性格傾向等を判断する検査

【ワーク/ライフ バランス】
すべての個人が仕事と私生活をバランスよく充実させることを目指す概念

白岡のおともだち、大集合

南児童クラブにおじゃましました



JUNE. 27 '05

学童保育所「南児童クラブ」

しらおかいちごくらぶ

きらつと輝いて!

代表 佐山 千鶴子

しらおかいちごくらぶは平成12年の図書館講座で「布の絵本」作りの魅力を知った仲間たちが図書館に置く「布の絵本」をボランティアで作っているグループです。布に触れることが好き、作ることに心が満たされる、そんな想いで月2回公民館に集まっています。

1つの作品を作るのに、まずテーマを決め、図案を起し、布を選んでそれから針を持って仕上げていきます。

町の昔話をテーマにした作品「オトカの化け話」が桐生の全国コンクールで大賞をいただいたこともあり、布の温もりは母の肌ろくにくなんによに次ぐものといわれています。老若男女を問わず紙の絵本とはまた違った楽しさがあるかと思ひます。

図書館に足を運ばれた時には、是非手に取ってごらんください。



問合せ先 白岡町立図書館 TEL 92-1894

編集後記

帰り際に、大橋さんから佐藤さんに励ましの言葉をいただいたとき、細やかな心遣いにとっても感動しました。

対談の時の彼らは緊張もありましたが、とても真剣なまなざしだったのが印象的でした。数年後車掌としてお会いするのが楽しみです。メトロの皆様御協力ありがとうございました。(編集委員長・鈴木)

編集委員：鈴木多美子、太田匡俊、石井久美子、落合利次、佐藤君代
表紙の絵：油井 久美子さん(町内在住)「Good Bye Moon」

発行
編集

白岡町広聴広報課 TEL 0480(92)1111 内線 354
FAX 0480(92)9096
E-mail kouhou@town.shiraoka.saitama.jp

しらおか男女共生広報紙編集委員会
ご意見、ご感想をお待ちしています。

©地球環境保護のため再生紙を使用しています。